



高野山開創
1200年



駕龍寺定紋

題字 / 弘法大師

福壽彙

高野山真言宗
備福山正智院 駕龍寺

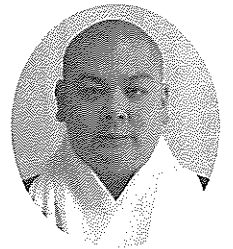
住所 〒710-0042
岡山県倉敷市二日市600
電話 086-421-5631
発行人 富山義賢
ホームページ http://www.karyuji.jp/

身も心も故郷に帰る

孟蘭盆會によせて

備福山 正智院 駕龍寺

住職 富山 義賢



今年もお盆をお迎えする季節がまいりました。土地土地の習慣や風習はさまざまですが、どこの土地でもご先祖さまの御魂がお帰りになることを待って準備を整え、お盆十三日の夕方、迎え火をたいて、いよいよご先祖をお迎えします。

人は亡くなると、まず草葉の蔭に宿り、そして時間をかけて(子孫の供養を受けて)、山(自然)に帰って、祖霊(先祖)となり、子孫を守るのです。

このご先祖様は、一年に二度この娑婆の世界にもどって来られます。一度はお正月。年末になると家々では、お飾りやお節料理を作って年神と御先祖様を迎える準備をします。

そして、もう一度がお盆です。これは家や地域によって違います。二泊三日か、三泊四日のあの世からの小旅行です。向こうからやって来られるので、基本的にはこちらはよそ行きの格好はしなくていい、私たちは普段着でお迎えすればいいのです。

そしてこのご先祖様を迎えるために、親戚一同が実家へ集まる。これが帰省です。帰省するのは生きた人だけではなく、先祖も帰省しているのです。

お盆の場合は、このご先祖に楽しく過ごしていただくために踊りを踊る。これが盆踊りです。

……以上のようなことが分らないと、正月とお盆は単なる「休み」となり、帰ってきた先祖はそっこのけで、旅行に出かけたりするのです。

実家がある人は考えたほうがいいでしょう。実家の嫁は本来この期間自分の家には帰れない、ということ。親戚や先祖が帰ってくるのに、その家を守っていつとすると嫁がいけないのでは話にならないではありませんか(古い考え方かなあ……)。このお嫁さんたちが、実家へ帰れるのは昔から正月もお盆も「藪(やぶ)入り」といわれる十六日でした。(ちなみに十六日は閻魔さまの御縁日です。)

これは、日本人の精神的かつ伝統的な文化で、仏教が日本に入る前からのものだとされています。これに仏教の孟蘭盆(うらぼん)の考え方が融合することになるのですが、この辺の詳しい話は別の機会に譲ることにします。しかし、お盆とは、まあなんと、楽しい風習なのだろうとつくづく思います。

人はみんな、いつかこの世の役割分担を終える。そして、年に二回、懐かしい人々と面会にやってくるのです。私も仏様のところへ行ったら、年に二回は懐かしい、そして縁ある人々の所へ帰ってこようと本気で思っています。私の場合、正月もお盆もどちらも二泊三日がいいところでしょう。それ以上滞在しても、生きてる人に迷惑だろうし、また向こうへ戻ってやるのが溜まってしまいそうだからです。

この時期は、各地において様々な盆行事がとり行われますが、どれも心を和ませてくれるものですね。

本来、盆休みは先祖供養のためのお休みなのです。このころでは、盆休みこそビッグレジャーだといって海外旅行や海や山に大勢出かけて行きますが、

お盆には出かけるものではありません。お盆は帰るのです。仏様がお帰りになるのですから、外に出ている子や孫、家族皆が家に帰って集まってご先祖様に感謝するのがお盆なのです。

これが仏教徒のお盆の正しい過ごし方ではないでしょうか。毎年毎年同じお盆はやってきません。今年のお盆は去年のお盆とも一昨年のお盆とも違います。そして今年のお盆は二度とやってきません。

心豊かな良いお盆をお迎えください。

合掌

暑中お見舞い申し上げます

高野山真言宗 駕龍寺

少僧正

住職 富山 義賢

総代・職員一同
寺 族 一 同

高野山開創1200年
記念大法會

生かせるいのち
— 大師のみおしえ いまここに

平成27年4月2日～
5月21日

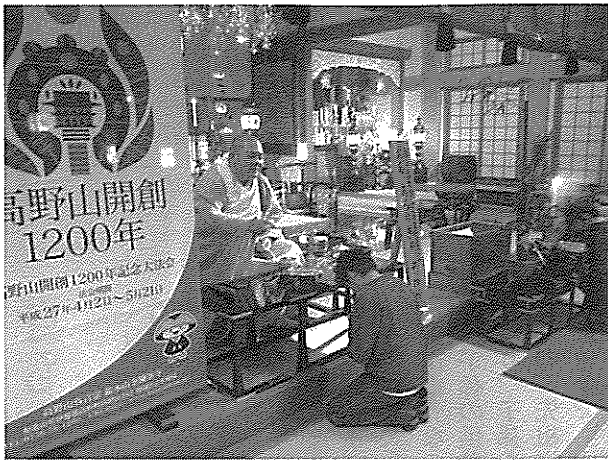
備福山小史 平成二十六年 上半期

除夜会・修正会
新年の安寧と世界平和を祈念

旧臘三十一日夜半から元日にかけて駕龍寺本堂において、過ぎゆく年を振り返り反省をする除夜会と無事に新年を迎えられたことを感謝し、世界平和と国家安寧、無病息災を祈る修正会が奉修されました。

大晦日の厳しい寒気の中、多くの檀信徒・近隣の人々が参詣し、一年間の感謝と新年の心願成就を祈りました。

堂内では本尊「福寿海観音」が御開帳され、住職導師のもと法会が厳修され、除夜の鐘を掲ぎ終えた参詣者が本



堂に上がり、焼香。今年は住職より参詣者一人ひとりに、お浄めの酒水加持が行われました。また、当日から正月三が日に参拝された方に干支を切り抜いた宝来と備前焼の干支飾りが授与されました。

節分会を厳修

(福豆・身代り守りを授与)

節分祈禱会が立春前日の二月三日午後三時から本堂で住職導師のもと行われました。当日は本堂内陣に星供曼荼羅を奉祠し各人の運命に影響を与える北斗七星・十二宮・九曜二十八宿の星をまつることで、除災招福・福寿増長を祈念いたしました。

法会終了後には、参詣者による豆撒きが行われ、恵方巻きが接待されました。この日は快晴に恵まれ、参詣の方も立春を前に春の訪れを間近に感じながら、一年の節目に無病息災をお祈りしていました。

弘法大師正御影供

春季彼岸会

三月十七日午前十時より、住職導師のもと観音講にあわせて春季彼岸会ならびに弘法大師正御影供が駕龍寺本堂

で厳修されました。当日は、多くの檀信徒ならびに永代供養・納骨の施主が多数参詣し焼香、各家先祖代々や身近な仏様の増進菩提を祈念しました。

また、同月十一日には東日本大震災発災より三年が経過したことから、東日本大震災物故者追悼会を併せて奉修しました。本堂内陣に物故者の位牌を奉安し、住職が回向文を奉誦し、参列者一同が焼香、物故者の冥福と被災地の早期復興を至心に祈りました。

平成二十六年度
世話人総会を開催

五月十八日午後四時、各地区の世話役と役員、総代が駕龍寺客殿に参集。那須昭文総代を司会に、御寶号七遍をもつて御法楽を捧げた後、富山義賢住職(那須総代代読)の垂示があり、続いて総代会を代表して藤木萬平氏が挨拶しました。その後、司会が総会の開会を宣言して議事に移り、平成二十五年年度事業報告を藤原金一総代が、会計報告(別掲)を藤井繁夫総代が上程、説明しました。

続いて岡本通監事が決算書について、それぞれ適正に処理されている旨の監査報告を行い、以上各案につき一括審議、異議なく承認されました。質疑応答が行われ、以上ですすべての議事を終了。午後四時五十分、御寶号七返をもって御法楽を捧げた後、閉会しました。

お願い

「参与会にお入りください」

お大師さま高野山開創
千二百年を迎えるにあたって

お大師さまは今もなお高野山奥之院で永遠の御入定に入っておられます。その願いはすべての宗派や身分・職業果ては国境をも越えて生き続けています。ここに、弘法大師を尊び敬愛し、信仰する皆様と共に弘法大師高野山開創千二百年大法会を成功に導くため、何卒お力添えをたまわりたく、高野山真言宗参与会にご入会下さいますようお願い申し上げます。

皆様方がお大師さまの御加護を受けられ、お幸せでありますように。

高野山真言宗参与会事務局

参与会とは、正式には高野山真言宗参与会といい、総本山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長さまを総裁と仰ぎ、弘法大師(空海の)のみ教えを守り弘め、お大師さまの衆生救済のご誓願におこたえすることを目的とする信仰団体です。

●お大師さまと共に広げようこの輪
現代の高野聖としてお大師さまのみ教えを広げていくために活動を行っています。会員になれますと、年二回の研修会や、高野山教報の購読、高野山へお参りの折りは各所内拝料無料、参拝記念としてお線香を贈呈致します。

●研修会 参与会では、年一回研修会を行っております。内容は、受戒、阿字観や法話聴講、勤行、下座行掃除(御詠歌などです。開催については、毎月二回送られる「高野山教報」でのご案内になります。会員の皆さまからは、大変好評を得ている研修会です。●物故者慰霊碑は、篤いご浄財により建立され、平成十四年十一月十日奥

団参報告

近畿三十六不動尊 霊場巡拝、今秋で結願

駕龍寺では「心の旅バスツアー」として全国の霊場や名刹古刹を巡る小旅行を年に二回程度実施しています。今年の七月で、近畿三十六不動尊霊場めぐりも四回目となりました。

毎回六、七ヶ寺を日帰りで行き、現在までに二十七ヶ寺を済ませました。三十名程の方が霊場巡拝を通じて自利利他の菩薩行の実践と相互の親睦を図っています。

途中からの参加や、一回のみのご参加も大歓迎ですので、詳細は駕龍寺までお問い合わせください。
五回目(最終回)は九月中旬を予定しています。

今回は高野山参りと合わせて一泊二日の旅程となります。参加希望の方はお気軽にお問い合わせください。



伊勢神宮参拝の旅

二月十二日から一泊二日で伊勢神宮と紀伊半島の寺社を巡る参拝旅行を実施しました。

昨秋、二十一年に一度の御遷宮を迎えた事もあって、伊勢参りが初めての方もふくめて多数の参加がありました。

一日目は最初に二見興玉神社に正式参拝し、古来からの伊勢参宮のしきたりである「無垢塩祓」を受けて、夫婦岩を見学し外宮にお詣りしました。御正宮を参拝したあとで、普段は経験のできない御神楽を奉納し、雅楽と舞の美しさに感動し、「せんぐう館」を見学して、千三百年続く御遷宮の歴史を学び、別宮である伊雑宮を参拝して、伊勢志摩ロイヤルホテルに投宿しました。

宿では大きなお風呂とおいしい食事疲れを癒し、途中からは思いがけなく大カラオケ大会になり、日ごろの修行?の成果を発揮していただきました。普段はお寺でしか会う事のない方の意外な一面が垣間見られて、非常に有意義な懇親会となりました。

二日目は伊勢志摩スカイラインを通り、伊勢神宮の鬼門を守る寺である金剛證寺を参拝し、大きな塔婆が林立している様子に驚き、内宮へ参拝しました。内宮でも参拝の後、御

神楽を奉納し、おかげ横丁で自由散策、持ち切れないほどのお土産を購入していました。
帰路の途中では、古くから皇大神宮の遙宮(とおのみや)と称され尊ばれている瀧原宮を参拝して無事に帰倉しました。
檜の香も新しい伊勢神宮と個人旅行ではなかなか参拝の叶わないお宮を拝することのできた非常に有難い参拝旅行となりました。



の院において慰霊碑開眼法会が執り行われました。参与会員は、極義参与物故者慰霊碑におまつりし永く供養を捧げます。

●会員になると、高野山真言宗管長(参与会総裁)より委嘱状をお届けし、参与袈裟と参与バッジを授与致します。また、参与袈裟をつけて高野山にご登山くだされば、諸堂、霊宝館の内拝が無料となり、金剛峯寺に参拝されると、記念品としてお線香を贈呈いたします。且二回発行の「高野山教報」をお届けし、高野山真言宗が発行するパンフレットなど印刷物をその都度お届けします。

●年会費 二万円
この年会費は、お大師さまのみ教えを一人でも多くの人に知っていただくための広報活動に役立てられています。

お問い合わせ、パンフレットご希望の方は駕龍寺まで

計報

大橋人司氏 (倉敷市黒崎一―二四黒崎、谷組世話役) は、かねてより四大不調にて療養中のところ、去る平成二十六年七月六日午後二時二十二分、逝去。行年九十三歳。哀悼。則ち、葬儀は七月八日午後一時半からアーバンホール中庄において、駕龍寺住職導師のもと厳修し、遺族、親族をはじめ会葬者多数参列し盛儀であった。
喪主は長男の茂氏。

當山盆行事御案内

三界萬靈供養

●八月十七日(日) 午前十時

於 駕龍寺本堂

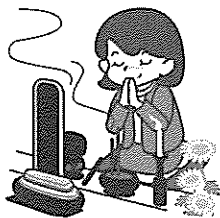
☒檀信徒総供養孟蘭盆大施餓鬼会

施餓鬼供養・塔婆供養・法話

そうめんのお接待

☒奉納演奏(出演:めぐみと雨)

暑い中、恐縮に存じますが、年に一度のお盆です。お練り合わせご家族おそろいで、またお一人でも是非お参り頂き御焼香頂きますようご案内申し上げます。



※当日は大変混み合います。普段着で涼しい服装でお参りください。

※お参りの節は、棚経の時に僧侶がお持ちした経木塔婆に施主のお名前を記入してご持参ください。

※当日、個々の戒名・俗名でご供養された方は、事前にお寺までお申し出頂るか、当日受付にてお申込みください(供養料、一霊につき五百円)

ご案内

高野山開創千二百年
大法会参詣の旅

千二百年、祈りの光景

平成二十七年、高野山は弘法大師空海、お大師様の手で真言密教の道場が開かれてから千二百年目を迎えます。この記念すべき年にみんな高野山にお詣りいたしましょう。

■実施予定日

平成二十七年五月十一日〜十二日

(一泊二日)

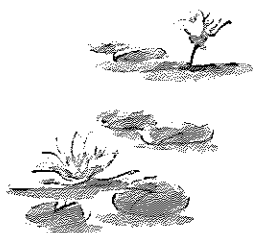
■内容

高野山での開創奉賛法要

・結縁灌頂(胎蔵界)入壇

・高野山内(金剛峯寺・壇上伽藍・奥の院など)の参拝

・その他、奈良・和歌山の寺社への参拝も検討中です。



高野山

御開帳・特別公開

金堂

御本尊特別開帳

期間:大法会期間中

平成二十七年四月三日〜五月十二日

場所:伽藍金堂

本尊:薬師如来(阿闍如来)

昭和元年、旧金堂が火災に見舞われ全焼します。その際、本尊の薬師如来(阿闍如来)を含む七体の仏像も焼失しました。現在の本尊は昭和九年の弘法大師千百年御遠忌にあわせた金堂の再建とともに当時の大仏師高村光雲師の手により新造されました。以来、八十年あまり厨子内に安置され、秘仏となつていました。

金剛峯寺

持仏御本尊開帳

期間:大法会期間中

平成二十七年四月三日〜五月十二日

場所:金剛峯寺持仏

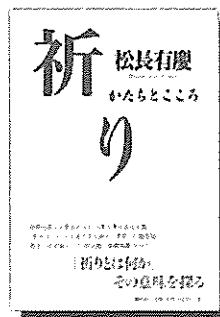
本尊:弘法大師座像

金剛峯寺持仏に安置される本尊、弘法大師は平成十一年に行われた平成の大修理落慶大法会の際に開帳されて以来、十四年ぶりの開帳となります。天和元年(一六八〇)、檢校文啓の指示で大師尊像を彫刻、持仏に安置しました。持仏には本尊等の仏像の他に金剛峯寺の住職である歴代座主の位牌が安置され、欠かさず日々の勤行が行われています。

新刊紹介

駕龍寺図書館

祈り かたちとこころ
松長有慶 著



四六・192頁
発行日:2014年5月

松長有慶管長様が新しく御著作を出版なさいました。

東日本大震災のとき、世界中の人々が宗教や人種の違いを超えて、真摯に祈っている姿がテレビなどで紹介されたが、それを機に、高野山真言宗管長の著者は「祈りとは何か」を仏典や宗祖空海の著作を紐解きつつ、改めて考えることを試みた。本書はその成果を一冊にまとめたもの。巻末には、阿字観の実践法の背景について解説した「阿字観の基礎知識」を付す。

【目次】(BOOK)データベースより
思いどおりにならない/いろいろな形の祈り/見えないもの/無自覚の宗教性/現世の御利益/人任せにせぬ祈り/現世利益を超える/観音さまの救い/心の垢を落とす/欲望とどのように向き合うか(ほか)

【寄書情報】(BOOK)データベースより

松長有慶(マツナガユウケイ)

一九二九年、和歌山県生まれ。東北大学大学院博士課程修了。文学博士。高野山大学教授、同大学学長、同大学密教文化研究所所長等を経て、二〇〇六年より高野山真言宗管長。専門は密教学(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

定価千六百円+税 各書店にてお求めください。

住職の独り言

ひつじとコラム

法事やお盆にはいろいろな檀家さんを回るのでありますが、それぞれのお家の雰囲気や投影されておもしろいです。

ということと今日は個人的に「おっ」と思う仏壇のポイントをご紹介します。

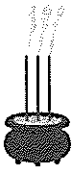
レベル1

◎ろうそく、線香、マッチがある
大体揃ってるんですが、どれか一つ無いなんてことも結構あります。ライターがあってもガスが切れてたりとか。

無いなら無いで「マイ参拝セット」があるので別にいいんですが、たまにろうそくが見つかからないからって直接マッチから線香に火をつける方がいます。

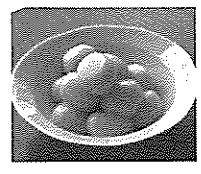
もし体裁を気にされるようであれば、これとあえず人前ではないほうがいいかもですよ。

仏教の決まり事を守るのは基本的に坊さんだけでいいと思ってる私でも思わず声を出して「ちよ、ちよ」と言ってしまうレベルのアレなので。



レベル2

◎手作り団子
↑こういうの。
パック入りのスーパード売ってるものをあげるところが多いです。



あとでそのまま食べられるように合理的ですよ。その中でお供え専用にしちんと作っていると「おっ」と思います。



◎経机に経本を置くスペースがある
字で書くときと当たり前ですが、できての方が珍しいです。

一番手前に配置されていて、一番物が置きやすい構造なので、だいたいお供えとかでふさがってます。

お供えでふさがってるのは一見問題なさそうに見えますが、経机ですから経本を読むための机なんですよね。

お供えは高坏に。なければ別のテーブルとか。
あと香炉(線香立て)が置いてあることも多いですが、香炉は仏壇に置くスペースがあるはずなのでそちらに。

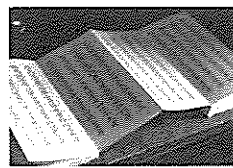
経本を置けると両手が空きます。

両手が空くと合掌してお経を上げることが出来ます。やはり合掌したほうが気持ちの入り方も変わってきて「なんかいいな」となりま

すよ。
わざわざ読むのは直接文字を見ることが視覚からも意味を確認できるからです。

見なくても覚えてるお経ほど再確認の意味で読むことを意識します。

簡単そうに見えますが、お坊さん用の経本はフリガナとか無いので意外と最初は難しいですよ(笑)
理趣経とか呉音ではなく漢音で発音するので特にわかりにくいですよ。



レベル4

◎線香が立ちやすい
ここが「普通」と「ちよと違」の境界線かも。

線香を立てた瞬間にその家が普段どれだけ拝んでるか分かります。

一見綺麗に掃除されてても普段拝んでいない家の香炉は灰が固まって線香が立ちません。



あと、灰のかわりにガラスビーズみたいなものを敷き詰めてるケースもありますが、確かに最

初はスッキリキレイに見えますが、少しでも線香の灰が上に落ちると急に汚く見えるので、普段拝む方はこういうものは使わないです。
合理的に見えて実はかなりマメな人向けの品ですよコレ。

レベル5

◎中心が揃っている
座ったとき、自分の正面に仏像、お茶・花などの器、香炉、経机、座布団まですべての中心が一直線に揃っているという。

このレベルになるともうなんかお寺で拝んでる気分になって大変居心地がいいです(お寺は必ず中心が揃えてあります)。

揃ってるようで大体なんかしら微妙にズレてるのが普通で、拝んでいる間ずっとその微妙なズレが気になってその自分のカラダを傾けてバランスを取りたくなるような、なんといかムズムズします。
こんなところですかね。

他にも位牌の位置とか花の種類とかいろいろありますが、私はそのへんは自分が荘厳するときしかにしませんが。

ということと今日はお坊さん側のひとりごとを公開してみました。

お仏壇の荘厳(おかざり)の仕方や、お供え物についてお知りになりたい方は、お気軽にお尋ねください

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	5,803,786	《 維持費 》	
受取利息	1,088	建造物修繕費	
地代入金(五日市 佐藤)	12,900	(トイレ改修・エアコン・障子)	1,190,020
維持管理費		環境整備費(草刈・剪定・伐採・浄化槽)	686,117
(内訳)		一石五輪塔・手洗い石	1,353,000
集金分 5,000×534戸	2,670,000	警備費(総合警備保障)	352,800
振込分 5,000×155戸	775,000	保険料(建物火災)	161,030
		租税公課(固定資産税)	4,300
		小 計	3,747,267
		《 運営費 》	
		消耗品費(リコーリース費)	141,120
		世話人会総会費	233,300
		奉仕者への弁当代他	77,389
		小 計	451,809
維持管理費合計(704戸)	3,486,000	支出合計	4,199,076
		次年度への繰越金	5,104,698
合 計	9,303,774	合 計	9,303,774

庫裡建築など環境整備基金合計額 16,661,939円

(単位：円)

この決算書を監査した結果、金銭出納簿の記載並びに証憑類の関係書類は厳正に管理保管整理され、決算書と相違ないことを報告します。

監査実施日 平成26年4月13日 駕龍寺監事 岡本 通 在判
同 監事 岡本 拓 在判

下半期行事予定

●九月十七日 午前十時

観音講・秋季彼岸会

※永代供養並びに納骨されている方は是非お参りください。

●九月中旬

秋の団参(奈良・高野山)

●十一月十六日

酒樽観音大祭

●十二月三十一日

午後十一時四十五分 除夜会

●平成二十七年一月一日

(除夜会に引き続き) 修正会

●月並行事

毎月 一日 鎮守講

十七日 観音講

二十一日 大師講

いずれも午前十時

◆奉仕の日(境内清掃)にご協力いただける方も随時募集しております。その月の開催日につきましてはお寺にご確認ください。(概ね毎月二十八日午前中)

投稿募集

皆様の疑問質問にお答えします
お便りをお寄せください

福寿海では読者の皆様からの投稿を募集しています。皆様の宗教体験や日常生活で感じたことなどを寄せてください。また「お答えします」のコーナーでは、皆様から寄せられた疑問質問に、住職はじめその道のプロが回答させていただきます。どんな些細な内容でも結構ですので、いろんな質問をお待ちしています。

宛先

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業を明記の上、左記までお送りください。

〒710-0042 岡山県倉敷市二日市八〇〇

高野山真言宗 駕龍寺「福寿海」係

●Eメールの場合は info@kanyujo.jp まで

※採用させていただいた方には駕龍寺より粗品を進呈させていただきます。

慧燈星懸(編集後記)

▼梅雨も明け、海の日(七月三十一日)も過ぎて、日本中が盛夏の装い夏衣を来て法務に出ていても海に入り泳ぎたい気分だ▼今年は棚経の段取りや本紙の原稿作りも例年より早く始められて気分的に余裕のある夏を過ごしている▼皆さんは例年のお盆をどのようにお過ごしだろうか▼真言宗では亡くなられた人々(お精霊さん)をあたかも生きているお客様のようにおもてなしする▼早朝から頻りに御茶湯をとりかえ朝昼の二食に食後の茶菓をしておやつなどをお出しする▼高野山で小僧をしていた時に九十歳を過ぎていた老住職にお盆の間の供養の作法を細かく手ほどきしていただいた▼その折の記憶が倉敷に来てからも役に立っている▼これは高野山に伝わる仏迎いの作法と山内各寺院のしきたりや合わさってできているものである▼記憶していることを毎年実践しているとその作法が今では駕龍寺独自のお盆の作法になっている▼せっかくなのお盆である、皆が集まったときに花が咲く思い出話をどなたか書きとめてはいかがだろうか▼後になって貴重な記録となり家宝として残るにちがいない▼今号では本年十一月に任期満了を迎えられる松長管長親下の近著を紹介させていただいた、是非座右の書にして頂きたい▼お盆が過ぎて秋風が吹く頃には我が家にもう一人家族が増える、これまで同様どうぞご帰属に▼酷暑のお盆皆様ご健勝にお過ごしください。▼尚、次号から紙面がカラーになり、一層見易い寺報になる予定です。どうぞお楽しみに。